

第34回

ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



農林水産大臣賞 図画2部 「初めて見た稲の花」
山形市立南小学校6年 會田 三郎さん



平成22年2月
山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

第34回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○農林水産大臣賞

(作文 2 部) 齋藤 隼也 鶴岡市立西郷小学校 5 年
(図画 2 部) 會田 三郎 山形市立南小学校 6 年

○優 秀 賞

(作文 3 部) 白石みおり 米沢市立第一中学校 2 年
(作文 3 部) 平山 美紀 山形市立第五中学校 3 年
(図画 3 部) 鈴木 智佳 山形市立第九中学校 3 年

○学校奨励賞

鶴岡市立西郷小学校
山形市立南小学校

山形県審査における入賞者

作文部門

● 1 部 (小1年～3年)

山形県知事賞 伊藤南奈美 鶴岡市立朝日小学校 3 年
山形県農協中央会会長賞 今野 杏唯 鶴岡市立大山小学校 1 年
優 秀 賞 原田 真白 米沢市立西部小学校 1 年
會田 空翔 山形市立出羽小学校 2 年
押切 真依 最上町立向町小学校 2 年
後藤 大空 米沢市立愛宕小学校 2 年
押野 明純 鶴岡市立朝陽第二小学校 3 年

● 2 部 (小4年～6年)

山形県知事賞 難波 葵 鶴岡市立朝日小学校 5 年
山形県農協中央会会長賞 菅 瑞季 最上町立満沢小学校 6 年
優 秀 賞 高橋 歩美 高島町立糠野目小学校 4 年
阿部 杏香 鶴岡市立西郷小学校 5 年
安部 航大 高島町立糠野目小学校 5 年
近藤 舞 鶴岡市立西郷小学校 5 年
山下 純平 最上町立大堀小学校 5 年

● 3 部 (中1年～3年)

山形県知事賞 平山 美紀 山形市立第五中学校 3 年
山形県農協中央会会長賞 白石みおり 米沢市立第一中学校 2 年
優 秀 賞 遠藤 ゆい 鶴岡市立朝日中学校 1 年
渡部 加菜 米沢市立第七中学校 1 年
高橋 奏 米沢市立南原中学校 2 年
山口 大智 南陽市立宮内中学校 2 年
我妻 隆羅 米沢市立第四中学校 3 年

●学校奨励賞

鶴岡市立朝日小学校
鶴岡市立朝日中学校

図画部門

● 1 部 (小1年～3年)

山形県知事賞 丹波 優大 尾花沢市立尾花沢小学校 3 年
山形県農協中央会会長賞 菅 佑菜 最上町立向町小学校 2 年
優 秀 賞 伊藤日向子 鶴岡市立田川小学校 1 年
廣瀬 佳那 尾花沢市立寺内小学校 1 年
平井 堅太 高島町立和田小学校 2 年
宮崎 泰成 鶴岡市立朝陽第二小学校 2 年
西尾 文佳 尾花沢市立荻袋小学校 3 年

● 2 部 (小4年～6年)

山形県知事賞 森谷 康平 山形市立出羽小学校 5 年
山形県農協中央会会長賞 小幡 剛 尾花沢市立福原中部小学校 6 年
優 秀 賞 海谷 有美 高島町立糠野目小学校 4 年
佐賀井千里 鶴岡市立京田小学校 5 年
高橋 捷 尾花沢市立明德小学校 5 年
今野杏有子 三川町立押切小学校 6 年
前田 和哉 鶴岡市立櫛引西小学校 6 年

● 3 部 (中1年～3年)

山形県知事賞 鈴木 智佳 山形市立第九中学校 3 年
山形県農協中央会会長賞 武田可奈子 山形市立金井中学校 2 年
優 秀 賞 荒井瑛絵子 山形市立金井中学校 1 年
田中 敦子 山形市立金井中学校 2 年
阿部 浩宜 山形市立第九中学校 3 年
岸 由麻 山形市立第九中学校 3 年
三浦 彩希 山形市立第九中学校 3 年

●学校奨励賞

尾花沢市立尾花沢小学校
山形市立第九中学校



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会

会長 今田 正夫

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

三十四回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文四〇七点、図画九二三点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。全国コンクールでは、作文部門と図画部門で農林水産大臣賞を受賞するという素晴らしい成績を収めました。これもご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはん食と健康の結びつきとを見直してもらい、人々とのコミュニケーションをはかっていただくために実施しております。

今回の皆さんの作品は、身近な人とかかわり合いの中で、自分の生活をしっかりとみつめ、家族の思いやり・うれしさや家族や友達と食べるごはんのおいしさを感じたことが伝わってくるものでした。また、ごはん食や実体験を通して、稲作農業の果たす役割の大きさを知ったことなども、素直に表現されているものもありました。

これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦勞や努力を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。また、家族を大切

にする心、自然を大切にしている心、生き物すべての命を大切にしている心、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本が経済大国といわれるようになって久しいですが、豊かな生活の中で、多くの大切なものを失いつつあります。食生活の面からみると、食料自給率は四一%と、先進国の中では最低の水準にあり、いざという時、食べ物が足りなくなるとい状況が心配されます。また、朝食を食べないなど、食習慣の乱れや栄養バランスの偏りが特に若い世代を中心として見受けられ、これらは生活習慣病の増加や、命を軽視した事件の多発化につながり、大きな社会問題となっております。

こうした中、私たちJAグループは、農家組合員と、消費者のみなさんが一緒になって、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを考え、行動していこうという「みんなのよい食プロジェクト」を立ち上げ、全国で取り組んでいます。日本人の主食である米をはじめとした日本型食生活の推進、食料自給率の向上、国産農畜産物の消費拡大、地産池消の普及や小・中学校の農業体験をはじめとする地域の特徴を活かした食農教育の推進に取り組んでまいります。

今後とも、食品の流通を追跡できる仕組み作り（トレーサビリティ）や、農薬などを抑えた環境保全型農業など将来にわたって安全・安心な国産農畜産物を提供するために一層努力をしてまいります。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

農林水産大臣賞



「初めて見た稲の花」

山形市立南小学校六年

會 田 三 郎

■山形県知事賞■

「三角にするのはむずかしい」

尾花沢市立尾花沢小学校三年

丹波 優大



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「いただきます！大すきなおにぎり」

最上町立向町小学校二年

菅 佑菜



■山形県知事賞■

「雑草にまけるな ぼくたちのいね」

山形市立出羽小学校五年

森谷 康平



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「ほかほかもっちりごはん」

尾花沢市立福原中部小学校六年

小幡 剛





■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■
「真剣な目つき」

山形市立第九中学校三年

鈴木 智佳



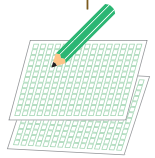
■山形県農業協同組合中央会会長賞■
「田植え家族」

山形市立金井中学校二年

武田 可奈子

作文部

農林水産大臣賞



ぼくがごはんつぶを残さないわけ

鶴岡市立西郷小学校五年 齋藤 隼也

ぼくは、ごはんつぶを残さない。今はそれが当たり前になってきている。幼稚園のころから、お父さんとお母さんに、一つぶも残さないように言われてきた。世界中には、食べたくても飢えて死んでしまう人達がいることを教えてくれた。今だったらはっきり分かるけど、幼稚園のころは、あまり意味が分からず、ごはんを残してしまっていた。

ぼくには、ごはんつぶを残さないわけがもう一つある。ぼくの一年生の時の先生は、丸山先生だった。女の先生だけれど、かみ型が金太郎に似ていたので、みんなから『金太郎先生』とよばれていた。

先生は、ぼくをだき上げて、「ぎゅうっ。」としてくれた。あつたかかった。先生の手は、ぼくの頭をなでてくれた。ぼくは、気持ちがゆっくりした。手を挙げると、「真つすぐ挙げていい手だのう。」

と、先生は両手でぼくの手を包んでくれた。

先生はその手で、おにぎりをにぎってくれた。金太郎先生だから、毎週金曜日がおにぎりの日。金太郎先生が「ぎゅうっ。」とにぎってくれるおにぎりを食べると、ぼく

は、金太郎になった。小学校の畑でとれた大根の葉をふりかけにして、葉大根おにぎりもにぎってくれた。とてもおいしかった。ごはんを食べる時、先生はいつも言う。「この一つぶに、田んぼで働く人が見えるかな?。」

だから、ごはんは大事に食べようねって言うてくれた。

ぼくの家の米は、じじちゃんとばばちゃんが作っていた。ぼくは、ごはん茶わんにごはんが残ると、じじちゃんとばばちゃんのことを思つて、一つぶも残さず、きれいに食べるようになった。お母さんが、「すっいの。」

と言つてくれて、うれしかった。これからも毎日、一つぶも残さずに、大事にごはんを食べようと思つた。

ぼく達は今年、学校田で米作りをしている。今は、ほが出てきて、ぐんぐん伸びている。けれども、田んぼの中には農薬の効かない雑草も出てくるし、虫も稲を食べしてしまう。自分が育ててみて、米を作るのは、とても大変だということを実感した。草をぬいたり、稲刈りをしたりして、米をしゅうかくするまでには沢山の時間もかかる。でも、食べる人がすごく喜んでくれると思うと、ぼくもうれしくなってくる。今のぼくには、金太郎先生が言っていた田んぼで働く人が、米一つぶに、はっきり見える。

ぼくは、金太郎先生の「ぎゅうっ。」を忘れない。それから、一つぶの中に、作ってくれた人の苦労と手とあせがある米を、ぼくは絶対そまっにしらない。これからも稲を育て、ごはんつぶを残さないようにしていきたいと思う。

■山形県知事賞■

田んぼにホタルが帰ってきた

鶴岡市立朝日小学校三年 伊藤 南奈美

「おい、南奈美、どこさ行くんだ。」

おにいちゃんが、わたしをよびました。

「田んぼさ、ホタルいるってよ。見に行ってみようよ。」

おじいちゃんの田んぼに行くと、チカチカする緑の光が見えてきました。そうと近づいてみると、穂の先にホタルがとまっていました。きれいな水が大好きなホタルは、おじいちゃんの田んぼに帰ってきたのです。

おじいちゃんは去年、病気のために米づくりをお休みしました。退院してきたおじいちゃんは、大好きな米づくりができなくてさみしそうに見えました。わたしは、おじいちゃんを作る米が大好きです。つやつやして、あまくてふんわりしたごはんは、どんなごちそうよりもおいしいのです。

今年のおじいちゃんは、えがおで米づくりをしています。一つひとつの仕事をしていねいに、心をこめてやっているように見えます。特に、稲たちには

「いいこだのう、元気に育てよ。」

と話かけながら、働いているようです。米づくりができるといううれしさが、わたしにも伝わってきます。

キラキラ光る、きれいな水が大好きなホタル。その水で作る、おじいちゃんのお米。

「こんなにたくさんホタルが来ているんだもん。おじいちゃんの米もおいしいはずだ。」

ホタルの光をながめながら、わたしはそう思いました。

おじいちゃんが、元気になって米づくりができるようになってよかったと思います。これからは、体に気を付けて、わたしたち家族のためにお米を作ってもらいたいなあ。そして、これからもホタルがやって来る、きれいな水を大事にしていこうと思います。

「南奈美、ねる時間だぞ。家に入る。」

田んぼのホタルに「おやすみ」を言いました。

■山形県農業協同組合中央会会長賞■

おじいちゃんのおこめ

鶴岡市立大山小学校一年 今野 杏唯

あきになると、

「あたらしいこめができたぞ、うめぞ。」

とにこにこしながら、おじいちゃんは、わたしたちに—
ばんはじめにおこめをくれます。まつしろでピカピカで
あまいごはんです。わたしは、おじいちゃんをつくった
おこめがだいすきです。おじいちゃんは、おこめややさ
いをつくるしごとをしていました。せんぎょうのうかと
いうそうです。あさはやくから、くらくなるまで、いつ
しようけんめいはたらいっていました。

もうすぐ、あきになります。ことしは、おじいちゃん
のおこめがたべられません。ことしのふゆに、きゆうに
てんごくへいってしまいました。とつても、とつてもか
ないです。おかあさんが、スーパーからおこめをかつ
てきました。わたしは、かったおこめをたべるのははじ

めてでした。いつもとちがうあじでした。

おぼんにおばあちゃんちにいったとき、おばあちゃん
がくからから、おおきなふくろをおもそうにもつてきまし
た。なかには、いつぱいおこめがはいっていました。

「じいちゃんのさいごのこめだ。あゆがたべたほうが、
じいちゃんはよろこぶよ。」

といて、おこめをくれました。うちにかえて、おこ
めをたいてもらってたべました。あきがきたみたいでし
た。おじいちゃんが「うまいぞ。」といているみたい
です。まつしろでピカピカであまいおじいちゃんのおこ
めです。とてもおいしかったし、うれしかったです。て
んごくでも、おじいちゃんはおこめをつくっているとお
もいます。おこめづくりがすきだからね。これからいろ
いろがんばるから、てんごくからみていてね。おじい
ちゃんのおこめはわすれないから。だって、やさしいあ
じがしたからです。いままでありがとう。おじいちゃ
ん。

■山形県知事賞■

私のお父さんの米づくり

鶴岡市立朝日小学校五年 難波 葵

私のお父さんは、ふだん、私の大きらいな虫を平気で見てきたり、私が食べようと思ったおかしや食べ物を食べていたりする意地悪なところがあります。でも、いろいろな仕事をしている時のお父さんは、真面目なのでとてもかっこいいです。特に、田植え機やコンバインを運転しているお父さんは、顔が真剣でいつものお父さんとは、ちよつと違います。

私は、今年、総合学習や社会で米づくりを勉強しています。学校田では、クラスのみんなと春から「はえぬき」を育てています。種まきや田植え、除草を手作業で体験しました。田植えや除草は、同じ姿勢で働かなければいけないので、腰が痛くなりました。種まきは運ぶものが重く、何回も同じような作業をくり返すので、農作業はきつい仕事だと思いました。学校での米づくりの体

験をして、ずっと米づくりをしてきたお父さんは、機械を使っている一人だから、大変だなあと思いました。

私のお父さんは、おじいちゃんが早くに亡くなったので、高校を卒業をしてすぐに、米づくりを始めたそうです。他に、やりたいことはあったのだそうですが、我が家は代々、農家をしてきたので、それをあきらめてあとをついだそうです。もう、三十年ぐらやっていて農業のことは、とてもくわしいです。私が、自由研究で米の成長を調べた時にも、生育調査のやり方や穂の粒の数え方などをやさしく教えてくれました。

お父さんは、安全で安心なお米をつくるために、特別な培など工夫した育て方を目的とした、農薬に頼りすぎない米づくりをしています。学校で育てている稲は、除草剤の効きが、よかった所と悪かった所ができて、悪かった所からは、ヒエがたくさん生えてしまいました。農薬をふつうに使っていても難しいのだから、お父さんの米づくりは、もっと難しいのだろうと思いました。

私は、お父さんに「米づくりって大変だけど、何が楽しみなの。」と聞いてみました。すると、お父さんは、

「おいしいと食べてくれる笑顔を見ることだよ。」
と教えてくれました。

お父さんは、雨の日も暑い日も、水の管理などで直接田に行って仕事をしています。私も、今年は、稲が気になって田に様子を見に行っています。日照不足と言われているりましたが、お父さんが一生けん命に育てた稲は、今年も元気に育っています。春に種まきをして、夏にぐんぐん伸び、秋に収穫される稲。毎年、同じことのくり返したと思っていた米づくりですが、「おいしいお米を食べさせたい」というお父さんの気持ちを知った今年の秋は、特別な秋になりそうです。感謝とほこりをもって、私もお手伝いしようと思います。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

でんがぐ焼き飯、日本一！

最上町立満沢小学校六年 菅 瑞季

「みずきー、でんがぐ焼き飯、できたぞー。」
家の中から、ひいばあちゃんの声がします。私はなわとびをやめて、家の中に入っていました。

私のひいばあちゃんは九十二才です。まだまだ元気なひいばあちゃんのいつもの仕事は、草むしり、洗たく物をたたむこと、ぜんまいもみです。それから、おいしい料理を作ってくれます。ひいばあちゃんの得意な料理は、でんがぐ焼き飯です。私の家は農家なので、広い田んぼでたくさんのお米をつくっています。そのお米ででんがぐ焼き飯を作ってくれるのです。

ひいばあちゃんのでんがぐ焼き飯は、アツアツで、少しカリカリッとして、ほっぺたがおちるくらいおいしいので、私は大好きです。私の家族も、みんなでんがぐ焼き飯の大ファンで、もりもり食べます。そんなおいしい

でんがぐ焼き飯をつくれるひいばあちゃんは、すごいなあと思います。

私もひいばあちゃんをまねして、でんがぐ焼き飯をつくったことがあります。おにぎりをにぎって、みそをぬって、台所の魚を焼く所で焼きました。できたのは、少しこげすぎて黒くなった、とてもしょっぱいおにぎりでした。ひいばあちゃんがつくるおいしいでんがぐ焼き飯とは全然ちがう味がしました。後でひいばあちゃんが、正しいつくりかたを教えてくださいました。私のつくりかたはまちがえていて、本当は白いご飯をにぎったら、まずみそをぬる前に少し焼いて、その後みそをぬってもう一度焼いてできあがりということでした。それを聞いて私は、

「なるほど。それだけで味が変わってくるんだな。」
と思いました。

この前、お母さんが、
「自分が子供のころもひいばあちゃんにでんがぐ焼き飯、つくってもらったんだよ。」

と話してくれました。お母さんが子供のころは、今私が住んでいる家ではなく、昔の古い家に住んでいました。

古い家には、まきストーブがあって、ひいばあちゃんは、そのまきストーブにあみをのせて、でんがぐ焼き飯を焼いてくれたそうです。ひいばあちゃんがあみのうえででんがぐ焼き飯を焼いている様子を想像すると、なんだかあたたかい気持ちになりました。

私はひいばあちゃんがつくるでんがぐ焼き飯が大好きだし、そのもとなる、私の家族がつくるお米も大好きです。ひいばあちゃんがつくるまるいでんがぐ焼き飯には、私の家族全員の「おいしくなってほしい」という思いがたつぷりつまっているのではないのかなと思います。私はその事をいつも頭に入れながら、大切にお米を食べたいと思います。ひいばあちゃんのでんがぐ焼き飯は日本一です。



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

おばあちゃんのおかゆ

山形市立第五中学校三年 平山 美紀

「うちに帰って、白いご飯が食べたいよ。」祖母は力無くつぶやきました。

胸骨圧迫骨折で、一年ほど入院していた祖母。私は部活動の合間を縫って、母とふたりで、祖母の元へ通い続けました。大会を控えての猛練習での疲れも、祖母に会うと、癒されました。

看護婦さんが祖母のご飯を運んでくれます。病院食は、ほとんど冷めてしまったおかゆでした。祖母の大好きなご飯は、八十年に及ぶ長い人生に欠かせない主食です。形状の違うおかゆでは、もの足りないようで、顔をしかめました。私は「早く退院して、私とお母さんと三人で、おいしいものをたくさん食べようね。」と元気づけました。

梅の花のほころび始めた二月。退院した祖母の家に、

明かりが灯るようになりました。退院祝いの夕食は三人です。血色もよくなった祖母は、自宅に戻れた喜びで、にこにこしています。母が「できたよー。」と食卓に運んできたのはおかゆでした。私はびっくりして、「おばあちゃんせつかく退院したのに、なんでおかゆなの。」母を責めるように言いました。食べ物がのどにつまりやすいからだそうです。

「炊き立てのご飯を食べられたらいいのに。」と、残念でした。せつなくなりながら、祖母の椀の蓋を開けました。できたての、つやつやとふっくらとしたおかゆが目に入りました。祖母は、満足そうに一はし一はし噛みしめるように口に運んでいました。私には眼鏡がくもるぐらいほかほかの炊き立てご飯です。頬張って食べました。「ありがとう。」と感謝する祖母の言葉には、家族、お見舞いの方々、医療関係者、そして米作りに携わる農家の方々や自然など、いのちを支えてくれた様々なことへの感謝が込められているように思えました。祖母のおかゆも私のご飯も「いのちの糧」です。

一人で寂しく食べていた病院食。おかゆであることは変わらなくとも、家族との楽しい語らいが、おいしさを

増しています。祖母と母と私の三人の食卓に、「家族愛」を感じたからこそその美味でしょう。そして、娘である母の、手作りならではのやわらかさや味つけが、祖母のご満悦に繋がったのでしよう。私も私ならではのおかゆをつくって、祖母に食べてもらいたくなりました。

休日の夕暮れ時、お米をとぐために台所に立ちました。米をとぎ、水にひたして小一時間。ほぼ透明で小粒だった白米が、白くなって一回り大きくなりました。母から教えてもらった水量と白米の入った土鍋を、ガスコンロにかけました。十数分後、最初はぶくぶくと甘い湯気をたてていた土鍋の中から、ぱちぱちという音とともに香ばしい香りがしてきました。祖母が土鍋の中からおかゆをすくうと、ゆらゆらと湯気が立ちました。あたかくて優しい湯気でした。湯気越しの祖母は、おかゆを食べたそうにしていました。すこしおこげができました。「これぐらい焦げていた方がおいしいよ。」と言って口に運んでくれました。「いつもよりおいしいねえ。」と祖母の笑顔。私も母も一緒に食べました。食卓には、米粒が一つもないお茶碗三つと土鍋が残りしました。

祖母は、私の母に「大きく育ちますように」と、慈愛

たっぷりのご飯を食べさせ続けました。そして今、母は祖母に「健康で長生きしてくださいませように」と祈りをこめたご飯と料理を作っています。同時に私にも愛情たっぷりの食事を出してくれます。ご飯をメインにした我が家の食卓には、思いやりの温もりがあふれています。

一緒にご飯を食べる時の祖母は、にこにこしています。そうすると、私も母も幸せを感じます。「いつまでも笑顔で長生きしてほしいなあ。」と願う私です。祖母のためにおいしいおかゆを作れるよう、腕を磨きたいです。



■全国優秀賞 ■山形県農業協同組合中央会会長賞

思い出のみそおにぎり

米沢市立第一中学校二年 白石 みおり

ご飯には、どうして思い出が宿るのだろう。ご飯には、パンなどにはない魅力があるように思えてならない。

我が家の心に残るおいしいご飯といえば、「くるみご飯」と「枝豆しようがご飯」だ。

くるみご飯は、くるみを一緒に炊き上げるかわりご飯で、くるみの香ばしさとしょう油の香りがぴったり合っていて、とてもおいしい。父が、くるみを採ってきて、干して、殻を割る。それだけでも大変な作業だ。私や兄も殻から実を取り出すを手伝う。家族みんなで苦労して採ったくるみだからこそおいしく思えるのだと思う。

「枝豆しようがご飯」は、家の畑で採れた枝豆をゆでてはじいて、それと細かく刻んだしょうがを炊き上がったご飯に混ぜる。母のオリジナルのご飯で、シンプルだがとてもおいしい。

でも、私には、その二つのご飯でもかなわない思い出のご飯がある。それは、八年前に亡くなったひいおばあちゃんがよく作ってくれた「みそおにぎり」だ。

小さい頃おばんちやの家に遊びに行くと、

「お前達さ食べさせんな、楽しみなんだもの。おばんちや食わねたって、いっぱい食べさせてけんなんね。」

と言って、いつも沢山のお菓子を出してきてくれた。買置きのお菓子がないと、

「ちよつと待ってな。今作ってけっからな。」

と言って出してくれたのが、みそおにぎりだ。みそをぬる、ただそれだけでけして特別な味ではないのになぜかとてもおいしかった。大好きだった。私達が食べるのを、いつもそばでほほえんで見てくれたおばんちやの顔は、とても優しかった。

「めんごいな。めんごいな。」

いつもそう言って頭をなでてくれた手で、心をこめてにぎってくれた愛情のかたまりだ。だから、私にとっては、特別なおにぎりだ。

ある日、自分でご飯を炊いて、みそおにぎりを作ってみようと思った。よく母にみそおにぎりを作ってもら

が、

「おばんちゃんのみそおにぎりにはまだまだかなわらないな。」

「いつも母は笑う。私も、上手にできるとは思わなかったが、自分で作ってみようと思いやってみた。炊きたてのご飯はとても熱く、手を真っ赤にしながらやっとうぎった。みそを均等にぬるのも大変だ。とてもおばんちゃんのように手早くきれいにはできない。食べてみた。おいしかった。でも、あのおばんちゃんのみそおにぎりは、違うものに思えた。次に、父と母にもみそおにぎりを作ってみた。自分の分を作るのとは違って、「上手に作りたい、喜んでもらいたい」という気持ちが起きてくる。父と母が、みそおにぎりを一口食べた。おいしいと笑顔で言ってくれた。」

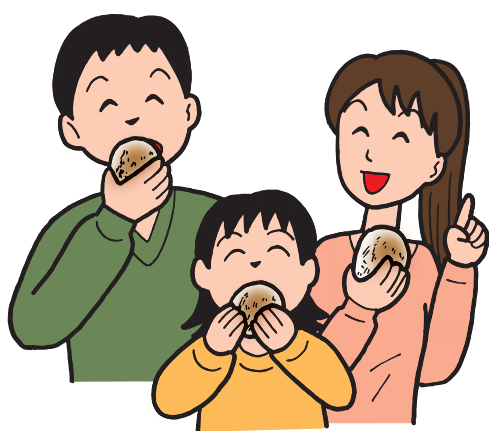
「おばんちゃんのみそおにぎりみたいだなあ。」と言ってもらってとても嬉しくなった。それから、大好きだったおばんちゃんの思い出話になり、とても楽しい夕食になった。

私の作ったみそおにぎりは、まだまだ上手ではなかった。でも、くるみご飯や枝豆しようがご飯もそうだが、

何よりも食べてくれる相手のことを思って作るご飯が一番おいしいのだと思った。

米は、農家の方々が大変な苦勞をして作って下さったものである。一粒一粒感謝しておいしく食べなければならぬ。おいしく食べるには、おばんちゃんのように、手を思って心をこめて作ることが大事なのだと思う。だからこそ、いつまでも心に残る大事な思い出ができる。

お米は、日本人の主食で食生活の土台となる大切なものである。しかし、それだけではなく大事な思い出を作り、心を豊かにしてくれる。私もお米を通して大切な思い出をいつか誰かに作ってあげられるようになりたい。



作文部門審査講評

山形県教育庁義務教育課指導主事 佐藤昌彦

第三十四回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの作文部門には、県内七十一校より四〇七点の応募がありました。

全国コンクールでは、鶴岡市立西郷小学校五年、齋藤隼也さんの「ぼくがごはんつぶを残さないわけ」が農林水産大臣賞を受賞しました。他に、山形市立第五中学校三年平山美紀さんと、米沢市立第一中学校二年白石みおりさんの二人が、優秀賞を受賞しました。おめでとございます。

さて、県審査の結果、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介いたします。

一部（小学校一年生から三年生まで）

○「田んぼにホタルが帰ってきた」（鶴岡市立朝日小学校三年・伊藤南奈美・山形県知事賞）は、ホタルが住めるきれいな水と環境、病気の治ったおじいちゃんのお米作りにかける思いが、おいしい米を育てているという筆者の気づきがしっかりと描かれています。ホタルを見に行った場面の中に、うまくまとめられた構成にも工夫があり、読み手をひきつける作品になっています。

○「おじいちゃんのおこめ」（鶴岡市立大山小学校一年・今野杏唯・山形県農業協同組合中央会会長賞）は、亡くなったおじいちゃん最後のお米を食べた筆者が、おじいちゃんのお米作りをよせていく様子が、会話文などを巧みに取り入れて表現されています。お米が、おじいちゃんからのメッセージとなって筆者に伝わり、心のつながりを一層強めたことに、読み手の心も温かくなる作品です。

二部（小学校四年生から六年生まで）

○「私のお父さんの米づくり」（鶴岡市立朝日小学校五年・難波葵・山形県知事賞）では、「感謝とほこりをもって手伝いをしていこう」という最後の一文が、作品のテーマを見事に言い抜いています。学校での体験とつないでお父さんの米作りを考えることで、その大変さを実感し、米作りにかけるお父さんの「生き方」をかつこいと感じたのでしょう。筆者の成長を感じることのできる作品です。

○「でんがぐ焼き飯、日本一！」（最上町立満沢小学校六年・菅瑞

季・山形県農業協同組合中央会会長賞）は、ひいおばあちゃんの作るでんがぐ焼き飯のおいしそうな表現が読み手の心をつかみます。また、ずっとおいしいでんがぐ焼き飯をつくり続けてきたおばあちゃんの姿に心を寄せながら、尊敬の気持ちを強めていく筆者のひいおばあちゃんに対する思いが温かく表現されています。

三部（中学校一年生から三年生まで）

○「おばあちゃんのおかゆ」（山形市立第五中学校三年・平山美紀・山形県知事賞）では、退院してくる祖母を迎える母の「おかゆ」に、筆者が「家族の愛情」を感じていく様子が、温かく描かれています。自分も祖母に、美味しいおかゆを作ってあげたいという結びからは、この体験を通して、筆者が思いやりで人と人とながっていることの良さを強く感じていることが伝わってきます。中学生らしいさわやかな書きぶりを感じることのできる作品です。

○「思い出のみそおにぎり」（米沢市立第一中学校二年・白石みおり・山形県農業協同組合中央会会長賞）は、筆者が炊きたてのご飯で手を真つ赤にしておにぎりをにぎっても、ひいおばあちゃんにはかなわないという思いを温かなタッチで素直に表現しています。家族の団らんの様子が生き生きと描かれており、読み手も、ほのぼのとした温かさを感じる作品に仕上がっています。

農林水産大臣賞を受賞した齋藤さんの作品も、「田んぼで働く人が米の中に見えるか」という問いかけを繰り返すことで、筆者自身の気づきや考えが深まっていくようすが描かれています。金太郎先生との強い結びつきが、エッセンスとなって作品を味わい深くしています。ここでは紹介できなかった作品にも、お米・ご飯に関わる体験を通して、温かな関わりが広がったり、深まったりしていくことに目を向けた力強いものが多かったと思います。皆さんの作品を読んで、私も身近な食材であるお米が、人・物・事と、自分との結びつきを改めて見つめ直させてくれるというのを感じることができました。

明 吉 田 山形市立第十中学校校長

第三十四回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門には、県内一二三校から九二三点の作品応募がありました。その中から優れた作品を選ぶ県審査を行いましたので、結果を紹介いたします。

一部（小学校一年生から三年生まで）

○「三角にするのはむずかしい」

（尾花沢市立尾花沢小学校三年・丹波優大・山形県知事賞）

きれいでかっこいい三角おにぎりにしようと考え、時にはやり直しながらもごはんを握っている様子がよくわかります。真剣な目、真一文字に結んだ口元、しっかりと描かれた両手が見る人の心をつかみます。画面いっぱい広がる色の明るさと鮮やかさが、さらに「むずかしい」を強く伝えていきます。

○「いただきます！大きなおにぎり」

（最上町立向町小学校二年・菅佑菜・山形県農業協同組合中央会会長賞）

おいしそうに光るお米一粒一粒がびっしりの大きなおにぎり。口いっぱい広げ頬張るときの幸せが伝わってきます。そこに見える歯しっかりおにぎりをつかむ手、そして食卓の食材一つ一つの色がとても丁寧に染められていて、作者の思いを見る人に伝えていきます。

二部（小学校四年生から六年生まで）

○「雑草にまけるな ぼくたちのいね」

（山形市立立出羽小学校五年・森谷康平・山形県知事賞）

学校で栽培している稲を、雑草から守るためにみんなで草とりをしている。子どもたちが稲を大切にしようとする気持ちが伝わってくる絵です。稲の青々とした瑞々しさがあふれるさわやかな構図と色づかいです。間もなく収穫の秋を迎えようとしている期待感が、子どもたちの躍動的な動きから伝わってきます。

○「ほかほかもちりごはん」

（尾花沢市立福原中部小学校六年・小幡剛・山形県農業協同組合中央会会長賞）

パッとふたを開けたとたん、立ち込める湯気、炊きたてのごはんのおいしそうな香りが本当に伝わってきます。人物の表情や明るい色調に、喜びがいっぱいあふれています。お米のつぶ一つ一つがしっかり描かれ、実りの豊かさが感じられます。

三部（中学校一年生から三年生まで）

○「真剣な目つき」

（山形市立第九中学校三年・鈴木智佳・山形県知事賞）

生きていく強い意志が、稲刈りをする夫婦の表情に見て取れます。自分たちの生活を支えてくれるお米の有り難さをかみしめつつ、そのお米をおいしそうに食べてくれる消費者の姿を思い浮かべながら、この夫婦は黙々と作業に取り組んでいるのでしょう。天高く馬肥ゆる秋のすがすがしい青空が、二人のお米に対する愛情をいっそう引き立てている秀作です。

○「田植え家族」

（山形市立金井中学校二年・武田可奈子・山形県農業協同組合中央会会長賞）

お米を大切に育てようとする家族の思いが、画面いっぱい溢れています。家族の会話の中には昔の人たちが大事にしてきたお米への愛情や、収穫を期待しながら一家が力を合わせて生きていこうとする声がかきこえてきそうです。表情一つ一つが生き生きと描かれ、汗をかいた頬を初夏の優しい風が撫でてくれます。

○県学校奨励賞は尾花沢市立尾花沢小学校と山形市立第九中学校が受賞しました。

また、全国審査会では今年度も、山形市立南小学校六年の會田三郎くんが農林水産大臣賞、優秀賞に山形市立第九中学校の鈴木智佳さんが受賞した他、山形市立南小学校が学校奨励賞を受賞するという素晴らしい成績を収めることができました。山形県の児童生徒のみなさんの優秀さが光りました。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門に応募された作品は、どれもお米をテーマにしながら自然の中で人々の働く姿や家族の団欒・友達とのふれあいなど心暖まる場面が生き生きと表現された作品で満ちあふれています。

「お米・ごはん」は日本の食だけでなく、出来上がるまでの過程やその風景・人間関係を含めた日本の「文化」そのものだと思います。山形県は、その文化を今なおしっかりと受け継いでいる中心地であることを証明するかなような作品群です。

今後とも、このような山形の文化風土に誇りを持つと共にそんな思いを込めた作品がたくさん出てきてくれることを期待します。

第28回	第27回	第26回	第25回	第24回	第23回
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 奥山 雅生(最上町) 守岡 雄朗(鶴岡市) 工藤 瑞穂(東根市)</p> <p>●優秀賞 石山 加奈(最上町) 菅 風沙(最上町) 伊藤 匠平(最上町) 渋谷 生帆(鶴岡市) 清野 真希(鶴岡市) 今井 大輔(鶴岡市) 菅井美香子(村山市) 五十嵐由香(鶴岡市) 大池 響子(米沢市) 阿達 大和(最上町) 稲垣菜里香(長井市) 土方 花重(鶴岡市) 南齋 宏駿(米沢市) 貝田 理沙(山形市) 宮崎加奈子(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立富沢小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 伊藤佐久磨(朝日村) 小野寺寛貴(鶴岡市) 菅原 香織(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 伊藤 睦美(朝日村) 本間 稚菜(鶴岡市) 安孫子 郁(天童市)</p> <p>●優秀賞 二宮明日香(高島町) 阿部亜紗子(最上町) 大貫 秀平(最上町) 清野 史拓(朝日村) 佐藤 拓夢(鶴岡市) 岸 はづき(最上町) 渋井 彩希(山形市) 二戸 浩太(最上町) 阿部 貴敏(最上町) 秋野 寛斎(鶴岡市) 松田 恵(南陽市) 川崎 成也(南陽市) 清野 郁(朝日村) 中里恵里香(朝日村) 難波 和宏(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 今井 大輔(鶴岡市) 佐藤 世和(米沢市) 小野寺千賀(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 水谷ひらり(山形市) 結城 智裕(最上町) 渡辺真理子(高島町)</p> <p>●優秀賞 小野寺陽奈(朝日村) 大場たくや(最上町) 鈴木 玲奈(高島町) 後藤なつみ(高島町) 志藤 貴俊(三川町) 大場 麻由(最上町) 大場 剛(最上町) 和田真由子(鶴岡市) 石山 樹里(最上町) 清野 郁(朝日村) 佐藤 和磨(山形市) 清野 優(朝日村) 清野 舞(朝日村) 遠藤 晃毅(朝日村) 井上 寛子(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 岸 詩音(最上町) 難波 裕人(鶴岡市) 佐藤 望(天童市)</p> <p>●県中央会会長賞 森 麻美(榊引町) 佐藤 香織(山形市) 清野 舞(朝日村)</p> <p>●優秀賞 今井 大輔(鶴岡市) 三浦 幸希(鶴岡市) 酒井 健太(山形市) 佐藤 大輝(鶴岡市) 佐藤真生子(最上町) 齋藤 那子(朝日村) 阿部 貴敏(最上町) 小野 翔(米沢市) 安達 美有(朝日村) 齋藤 若佳(最上町) 菅原 香織(朝日村) 大滝まど佳(朝日村) 菅原 泰隆(鶴岡市) 荒井 郁(山形市) 小林千恵子(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 阿部 将敏(最上町) 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 渡邊 雅正(酒田市) 阿部 奈美(鶴岡市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●優秀賞 白幡 梓(鶴岡市) 丸山 里佳(榊引町) 田中 麻衣(山形市) 斎藤 陽一(山形市) 高橋 真莉(最上町) 渡辺 大(南陽市) 加藤 梓(鶴岡市) 押切 成美(最上町) 安達 千李(三川町) 古川 悠(高島町) 遠藤 俊一(天童市) 清野 舞(朝日村) 清和 千秋(榊引町) 瀧口 夏子(天童市) 庄司 千鶴(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 本間 明音(鶴岡市) 渡部 大地(朝日村) 有賀真紀子(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 黒坂 雄志(最上町) 竹田実穂子(米沢市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●優秀賞 結城 智裕(最上町) 岸 詩音(最上町) 高橋 隆浩(高島町) 稲葉 彬(天童市) 近野健三郎(高島町) 阿部 晴美(最上町) 小野寺美夏(朝日村) 大谷部汐李(飯豊町) 原田 久美(最上町) 田中絵理加(高島町) 結城 重則(東根市) 高橋 愛実(山形市) 佐藤 牧(朝日村) 原田 智広(高島町) 本木いずみ(東根市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>
<p>全国</p> <p>●優秀賞 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 今野絵理奈(鶴岡市)</p> <p>●優秀賞 伊藤佐久磨(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 庄司 光(藤島町) 本間 公章(温海町)</p> <p>●優秀賞 結城 智裕(最上町) 佐藤 世和(米沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 遠藤 晃毅(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日中学校</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 結城まどか(最上町)</p> <p>●優秀賞 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 宮嶋 由季(最上町)</p> <p>●優秀賞 本間 明音(鶴岡市) 黒坂 雄志(最上町) 有賀真紀子(朝日村) 斎藤芽衣子(朝日村)</p>
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 笹原 瑞紀(尾花沢市) 乙坂ひかり(温海町) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 蛸井 葉月(鶴岡市) 難波 紗矢(朝日村) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●優秀賞 阿部 翼(最上町) 高野 陽希(最上町) 木村さえり(鶴岡市) 高橋 龍星(大石田町) 本間 円(尾花沢市) 佐藤真理絵(温海町) 小内 将弘(尾花沢市) 鈴木 結(藤島町) 國分 雅哉(尾花沢市) 須田 琳子(鶴岡市) 日下部まどか(山形市) 設楽なつみ(山形市) 清野 美香(山形市) 伊藤 歩(山形市) 吉田真優美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 温海町立温海小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 荘司 留加(尾花沢市) 伊藤 祐太(尾花沢市) 村上 美紀(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 阿部 行成(鶴岡市) 須田 雄飛(鶴岡市) 須田亜沙美(山形市)</p> <p>●優秀賞 庄司 菜菜(尾花沢市) 村岡 孝一(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 渡部 香菜(朝日村) 佐藤 史彬(高島町) 渡辺 大平(尾花沢市) 菅野 慎也(尾花沢市) 有路 里香(尾花沢市) 古瀬 裕真(尾花沢市) 阿部 貴文(鶴岡市) 古川 知美(山形市) 須貝 恵美(山形市) 高島 香織(山形市) 椎名 俊一(山形市) 鈴木 聖美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 清野 史拓(朝日村) 小林 由佳(山形市) 高島 香織(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 武田 翼(尾花沢市) 須田 雄飛(鶴岡市) 小松 恵梨(山形市)</p> <p>●優秀賞 阿部 奨平(尾花沢市) 佐藤 奨啓(寒河江市) 國分 健太(尾花沢市) 工藤 大周(西川町) 佐藤 秀太(寒河江市) 五十嵐 隼(朝日村) 土屋 趙史(尾花沢市) 安達 美咲(高島町) 倉金 侑香(尾花沢市) 永沢 都(尾花沢市) 田村 里奈(山形市) 村上 美紀(山形市) 須貝 恵美(山形市) 本田 裕子(山形市) 長岡亜由美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 半田さやか(山形市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長嵩 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 菅 友絵(最上町) 小野麻里子(尾花沢市) 齋藤 利恵(米沢市)</p> <p>●優秀賞 阿部 凌(寒河江市) 岸 英里香(最上町) 小林 育実(最上町) 佐藤 拓実(鶴岡市) 丹野 泰長(山形市) 須田 雄飛(鶴岡市) 岡田 勇人(最上町) 佐藤かおり(山辺町) 大久保 康(藤島町) 福田紗沙佳(最上町) 高島 香織(山形市) 鈴木 綾(米沢市) 小野友加奈(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立南山形小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 熊谷 朋美(尾花沢市) 渡辺 麻美(尾花沢市) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 須田 雄飛(鶴岡市) 鈴木 愛香(寒河江市) 長岡 和美(山形市)</p> <p>●優秀賞 原田 初美(尾花沢市) 吉田 龍一(大石田町) 結城 弘斗(尾花沢市) 佐藤 成美(尾花沢市) 船山 達郎(白鷹町) 土屋 範晃(尾花沢市) 五十嵐祐大(鶴岡市) 村井 法子(尾花沢市) 西尾 円華(尾花沢市) 岸 貴大(尾花沢市) 矢口 亜紀(山形市) 井上 庸(上山市) 鈴木 裕子(山形市) 西村 愛子(山形市) 青柳 悠香(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 寒河江市立寒河江中部小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 五十嵐祐大(鶴岡市) 菅野 瞳(尾花沢市) 武田 瑠子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 西塚 真治(尾花沢市) 今野 里紗(鶴岡市) 長尾 藍(山形市)</p> <p>●優秀賞 小林 由典(白鷹町) 落合 和也(尾花沢市) 木村 和人(鶴岡市) 佐藤 綾子(尾花沢市) 本間 翔太(尾花沢市) 高橋 茉莉(最上町) 大山 美幸(尾花沢市) 赤松かおり(最上町) 工藤 竜也(尾花沢市) 佐藤 伸也(新庄市) 鈴木 裕子(山形市) 友寄 歩惟(上山市) 庄司美智子(上山市) 遠藤真理子(山形市) 遠藤由紀子(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 鶴岡市立栄小学校 上山市立北中学校</p>
<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 栗野幸智恵(山形市)</p> <p>●全国中央会会長賞 伊藤 拓也(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立第九中学校</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 岸野 理沙(山形市)</p> <p>●優秀賞 佐藤 瞳(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 斎藤祐季子(山形市)</p> <p>●優秀賞 佐藤 奨啓(寒河江市) 倉金 侑香(尾花沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●文部科学大臣賞 長岡 和美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立金井中学校</p> <p>●優秀賞 阿部 凌(寒河江市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長嵩 絵理(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 斎藤 翠(山形市)</p> <p>●優秀賞 高橋 詢子(上山市)</p> <p>●優秀賞 須田 雄飛(鶴岡市) 早坂 卓也(余目町) 五十嵐隆介(尾花沢市) 庄司亜利沙(山形市)</p>	

第34回	第33回	第32回	第31回	第30回	第29回
<p>山形県 ●県知事賞 伊藤南奈美(鶴岡市) 難波 葵(鶴岡市) 平山 美紀(山形市) ●県中央会会長賞 今野 杏唯(鶴岡市) 菅 瑞季(最上町) 白石みおり(米沢市) ●優秀賞 原田 真白(米沢市) 會田 空翔(山形市) 押切 真依(最上町) 後藤 大空(米沢市) 押野 明純(鶴岡市) 高橋 歩美(高島町) 阿部 杏香(鶴岡市) 安部 航大(高島町) 近藤 舞(鶴岡市) 山下 純平(最上町) 遠藤 ゆい(鶴岡市) 渡部 加菜(米沢市) 高橋 奏(米沢市) 山口 大智(南陽市) 我妻 隆羅(米沢市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 押野 明純(鶴岡市) 鈴木 彩(鶴岡市) 有賀この美(鶴岡市) ●県中央会会長賞 會田 空翔(山形市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 我妻 隆羅(米沢市) ●優秀賞 鈴木 彩(鶴岡市) 井上 秀香(真室川町) 山口 まの(鶴岡市) 伊藤南奈美(鶴岡市) 渡部 寿彦(鶴岡市) 黒井 紀香(鶴岡市) 瀬川 隼矢(庄内町) 金野 華奈(鶴岡市) 保科 拓也(鶴岡市) 尾形 有生(米沢市) 進藤小百合(米沢市) 小野寺奈々(鶴岡市) 安達 景都(鶴岡市) 小野寺千尋(鶴岡市) 小野寺陽奈(鶴岡市) 佐藤 理奈(山形市) ●学校奨励賞 鶴岡市立斎小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 瀬川 隼矢(庄内町) 河野 美波(鶴岡市) 佐藤 楓(鶴岡市) ●県中央会会長賞 後藤 怜(最上町) 上野 艦(鶴岡市) 山口 和華(天童市) ●優秀賞 渡部 寿彦(鶴岡市) 笠原妃奈乃(最上町) 伊藤南奈美(鶴岡市) 結城 諒(最上町) 佐藤麻捺夏(鶴岡市) 藤原 央奈(山形市) 阿部紗世子(最上町) 菅 風沙(最上町) 引地加奈恵(最上町) 齋藤 央奈(山形市) 櫻井 祥太(山形市) 山口 愛実(南陽市) 久保 朝香(米沢市) 橋本明香里(山形市) 伊藤 香理(鶴岡市) ●学校奨励賞 最上町立向町小学校 鶴岡市立第五中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 原田 咲雪(米沢市) 大池 清士(米沢市) 大道寺 滯(米沢市) ●県中央会会長賞 佐藤 悠汰(鶴岡市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 榎本江里加(鶴岡市) ●優秀賞 伊藤 裕太(鶴岡市) 鈴木 彩(鶴岡市) 宮崎 俊也(鶴岡市) 情野 雪海(高島町) 金野 華奈(鶴岡市) 渡部 実佳(最上町) 小野寺千尋(鶴岡市) 沖田 竜馬(米沢市) 有賀この美(鶴岡市) 遠藤 拓実(庄内町) 渡部 香菜(鶴岡市) 尾形 祐佳(鶴岡市) 橋本 美月(米沢市) 那須友賀子(山形市) 後藤 萌(鶴岡市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第一中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 阿部拓悠真(庄内町) 治部あかね(東根市) 齋藤 那千(鶴岡市) ●県中央会会長賞 後藤 剛(高島町) 渡部 愛(米沢市) 佐藤 麻衣(山形市) ●優秀賞 渡部 由夢(高島町) 阿部 理沙(鶴岡市) 高橋 恵美(最上町) 阿部 貴之(鶴岡市) 齋藤 蓮奈(鶴岡市) 佐藤 彩絵(鶴岡市) 菅野明日香(高島町) 小林 桜子(山形市) 有賀この美(鶴岡市) 佐藤 誠(庄内町) 山口 真盛(鶴岡市) 川田美沙樹(山形市) 今野 若奈(鶴岡市) 榎本有紀子(鶴岡市) 富樫 美徳(南陽市) ●学校奨励賞 庄内町立余目第二小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 酒井 惇(天童市) 渡部 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市) ●県中央会会長賞 伊藤 浩司(朝日村) 石山 芽生(最上町) 大湊 希(米沢市) ●優秀賞 阿部 貴之(榊町) 齋藤 玲奈(羽黒町) 阿部 咲輝(朝日村) 佐藤 緑(山形市) 鈴木菜都美(大石町) 上野由香里(朝日村) 難波 和希(朝日村) 山木 理央(高島町) 杏澤 真佑(最上町) 橋本 大来(最上町) 大浦 沙織(高島町) 斎藤 那千(朝日村) 御崎夏津子(鶴岡市) 武田 奈緒(鶴岡市) 清野 郁(朝日村) ●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>
<p>全国 ●農林水産大臣賞 齋藤 隼也(鶴岡市) ●学校奨励賞 鶴岡市立西郷小学校 ●優秀賞 白石みおり(米沢市) 平山 美紀(山形市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 鈴木 彩(鶴岡市)</p>	<p>全国 ●文部科学大臣賞 金野 華奈(鶴岡市) ●全国中央会会長賞 高橋 理久(村山市) ●学校奨励賞 鶴岡市立羽黒第三小学校 ●優秀賞 佐藤 楓(鶴岡市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 大池 清士(米沢市) 大道寺 滯(米沢市)</p>	<p>全国 ●内閣総理大臣賞 伊藤 浩司(鶴岡市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 ●優秀賞 治部あかね(東根市) 齋藤 那千(鶴岡市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 酒井 惇(天童市) 渡部 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市)</p>
<p>山形県 ●県知事賞 丹波 優大(尾花沢市) 森谷 康平(山形市) 鈴木 智佳(山形市) ●県中央会会長賞 菅 佑菜(最上町) 小幡 剛(尾花沢市) 武田可奈子(山形市) ●優秀賞 伊藤日向子(鶴岡市) 廣瀬 佳那(尾花沢市) 平井 堅太(高島町) 宮崎 泰成(鶴岡市) 西尾 文佳(尾花沢市) 海谷 有美(高島町) 佐賀井千里(鶴岡市) 高橋 捷(尾花沢市) 今野杏有子(三川町) 前田 和哉(鶴岡市) 荒井瑛絵子(山形市) 田中 敦子(山形市) 阿部 浩宜(山形市) 岸 由麻(山形市) 三浦 彩希(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 阿部 篤(尾花沢市) 會田 次郎(山形市) 武田可奈子(山形市) ●県中央会会長賞 菅野 颯(尾花沢市) 押野 尚道(鶴岡市) 阿部 咲(酒田市) ●優秀賞 島津 諒(高島町) 加藤 翔龍(尾花沢市) 佐藤 愛竜(尾花沢市) 藤井美名保(尾花沢市) 佐藤 崇人(鶴岡市) 伊藤 陸(天童市) 今野杏有子(三川町) 藤田 麗(鶴岡市) 井上 和也(尾花沢市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 佐藤 緑(山形市) 渡邊 千咲(山形市) 上林 穂末(山形市) 鈴木 里奈(山形市) 加地 明里(米沢市) ●学校奨励賞 尾花沢市立明德小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 佐藤 永一(尾花沢市) 花山 伶奈(寒河江市) 堀野 佑衣(山形市) ●県中央会会長賞 森谷 康平(山形市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 垂石 杏(山形市) ●優秀賞 三澤 悠花(尾花沢市) 鈴木 芹奈(鶴岡市) 本間 智広(尾花沢市) 押野 尚道(鶴岡市) 吉田 周平(尾花沢市) 森 謙太(尾花沢市) 原田 紘(高島町) 菅野 静香(尾花沢市) 杏澤 佑樹(山形市) 丸田 駿平(尾花沢市) 羽角 菜(山形市) 島津 桃子(米沢市) 石井 志織(山形市) 橋本明香里(山形市) 中村 実那(山形市) ●学校奨励賞 寒河江市立醍醐小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 會田 三郎(山形市) 今野美季子(三川町) 齋藤 里沙(山形市) ●県中央会会長賞 押野 尚道(鶴岡市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 玉虫 正和(米沢市) ●優秀賞 佐藤 俊貴(鶴岡市) 高橋 翔太(高島町) 小黒 拓真(高島町) 長谷川 舞(鶴岡市) 佐藤 琳(尾花沢市) 東海林 道(尾花沢市) 上林 晃(鶴岡市) 森谷 麻衣(山形市) 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 長岡 佑佳(山形市) 大木 拓也(米沢市) 石川紗己子(米沢市) 佐藤 広康(山形市) 志田 優花(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 米沢市立第六中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 會田 次郎(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市) 日下部仁美(米沢市) ●県中央会会長賞 大類 海斗(尾花沢市) 浜田ひかり(南陽市) 木村 友美(山形市) ●優秀賞 星川 瑞生(山形市) 石山 詩穂(尾花沢市) 新田 尚大(山形市) 笹原浩太郎(尾花沢市) 佐藤つぐみ(鶴岡市) 加賀 東柱(大石町) 溝越 舞子(尾花沢市) 藤谷 陸姫(鶴岡市) 鈴木 潤(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 長岡 佑佳(山形市) 遠藤 瑞紀(山形市) 伊藤 茜(山形市) 神田 涼真(米沢市) 佐藤 勇大(鶴岡市) ●学校奨励賞 尾花沢市立高橋小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 菜純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市) ●県中央会会長賞 笠原 錬(最上町) 難波 沙英(朝日村) 小野紗由季(山形市) ●優秀賞 東海林梨奈(尾花沢市) 倉山 卓美(尾花沢市) 柴崎 日向(尾花沢市) 原田 桃香(尾花沢市) 阿部 風子(尾花沢市) 西尾 昂太(尾花沢市) 荘司 留加(尾花沢市) 斎藤 千佳(朝日村) 七森 結花(朝日村) 佐藤 光(温海町) 古閑 彰(山形市) 花等 雄太(山形市) 小玉 愛(上市市) 古川 千夏(山形市) 板垣 友也(山形市) ●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>
<p>全国 ●農林水産大臣賞 會田 三郎(山形市) ●学校奨励賞 山形市立南小学校 ●優秀賞 鈴木 智佳(山形市)</p>	<p>全国 ●内閣総理大臣賞 栗野 梨恵(山形市) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校 ●優秀賞 會田 次郎(山形市)</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 會田 次郎(山形市) ●学校奨励賞 山形市立南小学校 ●優秀賞 花山 伶奈(寒河江市) 堀野 佑衣(山形市)</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 須藤 萌(山形町) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校 ●優秀賞 會田 三郎(山形市) 今野美季子(三川町)</p>	<p>全国 ●内閣総理大臣賞 三浦 潤平(山形市) ●全国中央会会長賞 今野 桃子(山形市) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校 ●優秀賞 會田 次郎(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 菜純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市)</p>

第 34 回

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

■応募数

作文：407点
 図画：923点 合計 1,330点

区分	1部	2部	3部	計
作文部門	77点	95点	235点	407点
図画部門	521点	376点	26点	923点

■審査

(1) 県予選審査期日

作文部門 平成21年10月19日(月)
 図画部門 平成21年10月21日(水)

(2) 全国コンクールの結果

農林水産大臣賞2名
 (作文部門1名、図画部門1名)
 優秀賞3名(作文部門2名、図画部門1名)
 学校奨励賞2校

(3) 県コンクール県審査会期日

(作文・図画部門合同で開催)
 平成22年1月19日(火)

(4) 入選作品数

山形県知事賞 作文3点、図画3点
 山形県農業協同組合中央会会長賞 作文3点、図画3点
 優秀賞 作文15点、図画15点
 学校奨励賞 作文2校、図画2校

■審査委員

作文部門 (6名)

審査委員長 佐藤 昌彦氏(山形県教育庁義務教育課 指導主事)
 大内いずみ氏(山形市立第十小学校 教諭)
 樋口 潤一氏(山形市立第七小学校 教諭)
 村山智栄美氏(寒河江市立寒河江小学校 教諭)
 佐藤 弘美氏(山形市立第七中学校 教諭)
 二藤部敏和氏(東根市立神町中学校 教諭)

図画部門 (4名)

審査委員長 吉田 明氏(山形市立第十中学校 校長)
 堀 美保子氏(山形市立大郷小学校 教頭)
 神野 恭一氏(山形大学附属小学校 教諭)
 牧野 呂蘭氏(山形市立金井中学校 教諭)

■表彰式

平成22年2月6日(土)
 山形市「山形国際ホテル」

年度	部門	1部	2部	3部	合計
4 (第17回)	作文 図画	212 982	350 767	135 32	697 1,781
5 (第18回)	作文 図画	210 1,276	359 964	217 54	786 2,294
6 (第19回)	作文 図画	167 1,164	330 820	179 53	676 2,037
7 (第20回)	作文 図画	220 781	300 647	138 23	658 1,451
8 (第21回)	作文 図画	201 639	337 507	152 66	690 1,212
9 (第22回)	作文 図画	63 643	229 461	69 40	361 1,144
10 (第23回)	作文 図画	75 907	137 594	117 47	329 1,548
11 (第24回)	作文 図画	108 869	195 450	108 26	411 1,345
12 (第25回)	作文 図画	65 495	122 311	112 9	299 815
13 (第26回)	作文 図画	45 731	143 408	91 16	279 1,155
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957
19 (第32回)	作文 図画	44 488	117 418	225 27	386 933
20 (第33回)	作文 図画	58 550	84 412	231 27	373 989
21 (第34回)	作文 図画	77 521	95 376	235 26	407 923

●第34回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領●

1. 趣 旨

このコンクールは、お米・ごはん食、稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般と、お米・ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらおうとともに、次世代の子供たちに稲作農業が果たす多面的な働きとお米・ごはん食の重要性、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施します。

また、全国段階のコンクールと並行し、同一趣旨で実施します。

2. 「作文・図画の課題」「応募資格」

「応募規格（枚数・大きさ）」「応募規則」

全国段階の募集要領を適用します。

【課題】（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食についての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。

特別支援学校の小学部、中学部。

【応募規格】（枚数・大きさ）

●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生
(400字詰市販原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙4枚以内)

●図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生
B3判(36.4センチ×51.5センチ)相当の市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。

【応募規則】

- (1) 課題にそった作品を対象とします。
- (2) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (3) ひとりで1部門に2点以上は応募できません。
- (4) 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の応募者一覧表を必ず添付してください。
- (6) 作品には、1点ごとにつぎの事項を記入した応募票をつけてください。(下に見本)
つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。
①作品の題名 ④学校所在地(郵便番号・電話番号)
②氏名・性別 ⑤本人住所(郵便番号・電話番号)
③学校名・学年・組 ⑥J A名(農協名)
- (7) 大臣賞およびJ A全中会長賞入賞作品は平成22年3月上旬に返却予定、これ以外の作品は平成21年12月下旬に返却予定です。県知事賞・J A山形中央会

会長賞作品は、1年間「協同の杜」J A研修所に展示しますが、これ以外の作品は返却します。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会に帰属します。

(8) 本コンクールの作品応募に際して提供された個人情報、承諾なく第3者に提供しません。ただし、入賞者については入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や作品展示などの広報活動で公表する場合があります。

3. 締切日

平成21年10月7日(水)(必着)

4. 入賞発表

全国発表 平成21年12月1日

本県発表 平成22年1月20日

5. 賞

全国審査の全国表彰のほか、本県審査により次の表彰を行います。

●山形県知事賞

両部門各部門ごとに1名 計6名

(賞状と山形県農業協同組合中央会から1万円相当の図書カード)

●山形県農業協同組合中央会会長賞

両部門各部門ごとに1名 計6名

(賞状と山形県農業協同組合中央会から5千円相当の図書カード)

●優秀賞

両部門各部門ごとに5名 計30名

(賞状と山形県農業協同組合中央会から3千円相当の図書カード)

●学校奨励賞

両部門ごとに2校 計4校

(賞状と山形県農業協同組合中央会から2万円相当の図書カード)

6. 審査委員

県教育庁、小・中学校教諭

7. 応募先

(1) 県内の各J Aを受付窓口とします。

(2) 県段階は次に問合わせください。

〒990-0042

山形市七日町三丁目1番16号

山形県農業協同組合中央会

(J A山形中央会)

農業農政部

「作文・図画コンクール」係

T E L 023-634-8114

F A X 023-633-1754

8. 全国段階との関連

(1) 県段階で予備審査を行い、各部門ごと数点を全国に推薦します。

(2) 全国審査終了後、全国から返送された作品を含め、本県の本審査を行い、県段階の優秀作品を決定します。

作品の題名			
フリガナ		性別	
氏名		男・女	
フリガナ			
学校名	立	学校	年 組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
フリガナ			
本人住所			
当該 J A			

農林水産大臣賞

作文2部

「ぼくがごはんつぶを残さないわけ」

鶴岡市立西郷小学校5年
齋藤 隼也さん

No. 1
「ぼくがごはんつぶを残さないわけ」
西郷小学校 五年 齋藤 隼也
が当たり前になっている。幼稚園のころから
お父さんとお母さんに、一つぶも残さないよ
うに言われてきた。世界中には、食べたくて
も飢えて死んでしまふ人達がいることを教え
てくれた。今だ、たうは、さり分なけい、
幼稚園のころは、あまり意味が分からず、ご
はんを残してしまっていた。
ぼくには、ごはんの心を残さないわけが
一つある。ぼくの一年生の時の先生は、
山先生だった。女の先生だけれど、かみ型が
金太郎に似ていたので、みんなから「金太郎
先生」とよばれていた。みんなから「金太郎
先生は、ぼくをだき上げて、「ぎゅっ」
としてくれた。あ、たがった。先生の手は
ぼくの頭をなでくれた。ぼくは、気持ち
ゆっくりした。手を挙げると、
「真っ、お茶を上げて、いい手だね。」

No. 2
と、先生は両手でぼくの手を包んでくれた。
先生はその手で、おにぎりを包んでくれた。
金太郎先生だから、毎週金曜日がおにぎ
りの日。金太郎先生が「ぎゅっ」をして、
てくれるおにぎりを食べるよ、ぼくは、金太
郎に言った。小学校の畑でとれた大根の葉を
ふりかけにして、大根おにぎりにして、
くれた。とてもおいしかった。ぼくは、食
べた。先生は「いい手だね。」
「この一つぶに、田んぼで働く人が見えな
か？」
だから、ごはんは大事に食べようね、と
てくれた。
ぼくの家の茶は、いじやんとぼくは
が作っていた。ぼくは、ごはんを茶わんに
人が残ると、いじやんとぼくは、人のこ
を思ふ。一つぶも残さず、きれいに食べる
ようにした。お父さんが、
「ま、いい。」
と言った。うれしかった。それからは

No. 3
毎日、一つぶも残さずに、大事にごはんを食
べようと思えた。
ぼく達は今年、学校で米作りをしている。
今は、ぼくが出てきて、みんながんばっている。
けれど、田んぼの中には、農薬の効かない雑
草も出てくるし、虫も稲を食べてしまふ。自
分が育ててみて、米を作るのは、とても大変
だということも実感した。草をぬいたり、稲
刈りをしたりして、米を一つ一つかき取るまで
には沢山の時間もかかる。でも、食べる人が
すく喜びでくれると、ぼくもうれし
くなる。今のぼくには、金太郎先生が
言っていた田んぼで働く人が、米一つぶに、
ぼくは、金太郎先生の「ぎゅっ」を忘れ
ない。それから、一つぶの中に、作ってく
た人のまごころとあせがあふ米を、ぼくは絶
対まづにしらない。それからも稲を育て、ご
はんの心を残さないようにしていきたいと思
う。

